

2025JR総連春闘スローガン決定!

2025JR総連春闘スローガン

1. 統一要求・統一闘争貫徹!

要求満額獲得にむけ、前職場・全組合員とともに

2025JR総連春闘をたたかい抜こう!

1. JR総連の旗の下

職場活動の強化を通じて組織強化・拡大を勝ちとり

鉄道の安全と職場要求を実現しよう!

1. あらゆる労働者・地域の仲間とともに連帯と共闘を強化し

産業間・企業間・地域間格差を許さずたたかおう!

10月30日、目黒区・中小企業センターにおいて「単組・地協拡大代表者会議」を開催しました。6月3日に開催した第40回定期大会以降5カ月が経過し、JR総連と各単組・地域協議会協力のもと積み重ねてきたたたかひの総括と「2025JR総連春闘」に向けた意思統一を行いました。

●2025JR総連春闘について
24春闘において、地域間・産業間・企業間格差は広がり課題を残しました。くわえて物価は依然として高止まりの傾向のため生活実感はよくなっています。加盟単組の賃上げは、定昇込みの加重平均で4.11%、連合平均5.1%、交通運輸産業の平均は3.29%であり、2025春闘も「額要求」にこだわり、「統一要求・統一闘争」でたたかっています。JR総連春闘の意義や「連帯・共闘」にこだわり、加盟単組・労連が一糸乱れぬたたかひを構築できるよう闘争の構えをつくり出していきましょう。ありませんか。

●安全確立について
JR全体として危険事象、不安全事故、命を落とす事故・事象が連続発生しています。JR九州高速船の浸水隠蔽は、社長の指示と了承のもと記録を改ざんし、警報センサーも変更していました。観光船事故の教訓を無視した許されない違法行為として断罪されるべき事象です。圧入作業における数値管理の実態も鉄道会社によってバラバラであり、その呼称も「基準値」「目安値」「JIS規格値」など異なります。車輪組立時の圧入力数値のデータを書き換えた問題と圧入作業における基準値の問題は区別して捉えるべきであり、すべてが不正行為であったかの表現は適切ではありません。

●労働実態の背景に「コスト管理」や「効率化」などが影響していたことも認めないとの報告も職場からあり、JR総連組織全体の課題として、職場現実に踏まえた原因究明と再発防止に向けた対策と運動が急務です。

●政策課題の実現について
ローカル線の維持・活性化にむけて今後の焦点は、「いかに地域と連携して、草の根的に運動を巻き起こすこと」が重要になっていきます。加えて鉄道貨物輸送についてもネットワーク維持のためのたたかひが必須です。「物流革新緊急パッケージ」が公表され、2030年に34%の輸送力不足が予測される中、モーターシフトの推進や適正な運賃収受に向けた見直しなどが検討されています。31フイートコンテナの利用促進とあわせて、40フイートコンテナの利用拡大が掲げられています。現実的には貨物駅や建築限界支障問題などインフラ整備は追い付いていません。継続してたたかひを構築していきます。

●平和の課題について
10月24日、玉城知事をお招きして平和集会を実現することができました。日本が突き進む軍事大国化に対する危機感や、住民の声を無視した辺野古新基地建設、自衛隊の機能強化、南シフトの実情など沖繩の現実を共有する場をつくることができました。JR総連は「9条連」との連帯はもとより、組合員の政治意識を高めていかなければなりません。

●労働運動が戦時体制に飲み込まれようとしている時だからこそ、反対運動のうねりを国会のなかでもつくり出していかなくてはなりません。来夏の参議院議員選挙においても、今回の選挙同様、私たちが推薦する候補者の必勝をかち取るために準備しよう。

玉城デニー知事と心をひとつにした10・24平和集会

JR総連は10月24日に、「沖縄の怒りを我がものに！玉城デニー知事とともに考える10・24平和集会」を9条連との共催で開催しました。

「端緒を切り拓くため、平和集会を開催」

現在ロシア・ウクライナ戦争をはじめ、中東における戦争など戦禍が拡大し、第三次世界大戦へ突き進みかねないと危惧をしています。日本も、台湾有事や北朝鮮のミサイルなどを引き合いに、南西シフトが敷かれ、沖縄本島含めた各島にミサイルが配備されるなど、「新たな戦前」が現実味を帯びており、沖縄県民は、また「捨て石」にされるのではないかと強い怒りが噴出しています。

第二次世界大戦に発展していく過程で、戦争に反対する労働組合は皆無でした。沖縄を再び「捨て石」にさせないためにも、沖縄との連帯をさらに強め、労働者、労働組合として、地域とともに大きなうねりをつくりあげていかなければなりません。

「海勢頭ライブから玉城デニー知事講演で心をひとつに」

JR総連作成のオープニングビデオ上映後に、沖縄9条連共同代表でもある海勢頭豊氏の生ライブでは、「月桃」「キセンバル」の2曲が披露され、曲への思い



海勢頭豊氏によるライブ

や今の沖縄について語っていただきました。参加した青年部員からは、「初めて聞いたが、これを機に沖縄について知っていききたい」という感想も出されました。

玉城デニー知事の講演では、沖縄の歴史（沖縄戦）と今の基地問題、知事が取り組んでいることをなどを通して、沖縄の怒り、玉城デニー知事の思いが訴えられ、私たち一人ひとりの行動が問われました。

「命どう宝」を合言葉に

沖縄戦では、「鉄の暴風」と言われるほど激しい空襲や艦砲射撃が降り注ぎ、本土防衛のための「捨て石」として、沖縄県民12万人（人口の4分の1）を超える犠牲者を出しました。軍国主義、愛国教育の中で、沖縄県民は「命こそ宝だ」と沖縄戦で学び、「命どう宝」という言葉が生まれました。

今集会を皮切りに、沖縄の怒りを我がものとして捉え、玉城デニー知事とともに、「命どう宝」を合言葉に、反戦・平和のたたかいを一人ひとりが堂々と押し進めていこうではありませんか。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
55年間の持続可能な開発目標(SDGs)を実現しています

はたらくあなたの、いちばんそばに。



お金のことや、人生のこと。

相談できるから、

夢がひろがる。



あなたと家族に安心届けます。保険はおまかせください。

各種のお問い合わせはパソコン・スマホから可能ですので、ご利用をお待ちしております。

JR総連・各単組賛助団体

鉄道ファミリー

検索

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店

〒141-0031
東京都品川区西五反田3-2-13 目黒さつきビル
TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198

「もしも」に備え「もしも」を防ぎ「もしも」に向き合う。

「みんなであすけあい、豊かで安心できる社会」の実現に向け、皆さまとともに取り組んでいきます。



こくみん共済 NEWS

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済(全労済)

全国労働者共済生活協会の共同組合

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保険の生産として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生活協会の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

第50回衆議院議員総選挙を終えて ～来夏の参議院議員選挙を見据えて取り組みを強化していこう！～

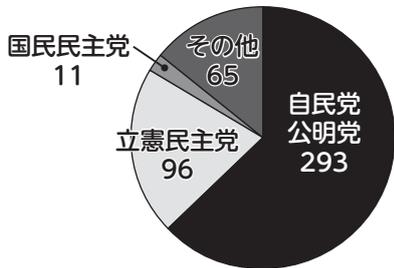
石破新政権発足から戦後最短で解散・総選挙となった第50回衆議院議員総選挙は10月15日公示・27日投開票日で施行されました。JR総連は、総選挙にあたり戦争政策に突き進む動きにNO！を突きつけ、憲法改悪反対を旗印にして、推薦議員の必勝のために各単組と連携しながら取り組みを進めてきました。

JR総連は、各単組からの推薦要請にもとづき、84名を推薦決定してきました。結果は、JR総連推薦議員懇談会の共同代表4名をはじめとして68名が当選し、JR総連推薦議員懇談会を拡大することができました。また、同日施行された参議院岩手県選出補欠選挙では、前共同代表である木戸口英二氏が当選しました。この間の各単組における期日前投票などの取り組みに心より敬意を表し感謝いたします。与党が議席を減らし、野党が大幅に議席を増やしたことで、過半数を割り込み、改憲勢力も3分の2を切りました。自民党の「裏金問題」や選挙戦終盤で報道された「2000万円問題」によって、前回2021年より与党の得票率が約10%減少したことが、与党の議席減につながりました。

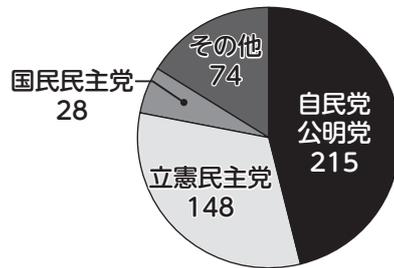
一方で、野党は候補者が一本化とならず、複数の候補者が出馬したことで、相対的に与党候補が勝利した選挙区もありました。野党が共闘していれば選挙区で22議席増という試算も出ており、政権交代に向けた、野党共闘に課題を残しました。

衆議院議員総選挙の結果は、来年の参院選へのはずみとなる一方で、与党過半数割れによって、「首相退陣論」「衆参ダブル選」の報道が出るなど、不安定な政局となるなか、法案を通すために野党各党の駆け引きはより強まるのが想定されます。そうした情勢の下、JR総連は、あらゆる戦争政策に反対し、ローカル線の維持・活性化、鉄道貨物輸送の課題解決のためにも、JR総連推薦議員懇談会とともに、来夏の参議院議員選挙を見据え政策課題実現、憲法9条を守り広める取り組みを強化していきます。

第49回(2021年)各党議席数



第50回(2022年)各党議席数



関東地協「第37回定期総会」開催！

JR総連関東地協は、10月21日に第37回定期総会をJR東労組東京地本会議室で開催しました。来賓として、関東交運労協より高島副議長にお越しいただきました。冒頭、梶田議長はJR貨物で発生した車軸圧入時の改ざんについて「JR東日本でも2017年に不正が発覚した。当時組合として公表すべきと会社に指摘したが、会社は公表しなかった。当時公表していればここまで大きな問題にはならなかった」と、「八王子支社では、管理者からの暴行に對して、抵抗した社員が出勤停止及び出向させられるという事態が発生している」と現在のJR東日本会社の現状と、さらにJR東海の組織問題について提起を行いました。



2024年度JR総連関東地方協議会新三役

議長	梶田 優一	JR東労組
副議長	太田 佑貴	鉄研労
副議長	木山 敬太	システム労
事務局長	菊地 秀晶	JR貨物労組

交運労協第40回定期大会 荒木政策・政治部長発言要旨

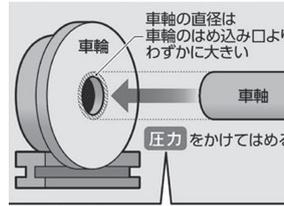
10月10日、交運労協第40回定期総会が、開催されました。住野議長は挨拶で、政府が決定した「物流革新パッケージ」、改正物流2法の公布を受けて、国交省・経産省・農水省の合同会議に、委員として参画し、意見反映を行ってきたことや、ローカル線の再構築に関する協議などについて触れました。

JR総連からは、荒木政策・政治部長がJR貨物の輪軸組立作業の課題について発言しました。

発言要旨

現在、職場現実を掴み、不正行為に至る背景に何があったのか、職場の組合員とともに、二度と同じ過ちを犯すことのないように、不退転の決意で実態解明に取り組みている。

鉄道車両の「輪軸」の仕組み 取材から



圧入力値が……

大きい 軸が傷つく損傷の要因

小さい はまり具合がゆるい脱輪の恐れ

問題 基準を超えた場合の規定が各社バラバラ

適正 日本産業規格(JIS)をもとに各社で基準

【朝日新聞デジタル2024年10月3日付より引用】

国交省が、輪軸の緊急点検を指示し、各社の実態が明らかになった。その結果、「いわゆる基準値越え」は、JR貨物にとどまらず鉄道会社全体の問題へと発展している。問題の背景には、基準とされる数値管理について、厳密に決められておらず、各社によってバラバラであり、呼称も「基準値」「目安値」「規程の範囲」「JIS規格値」「当社で定める値」など異なり、「メーカーが示した下限値と上限値の範囲の中で各社がそれぞれにルールを定める」といった、いわゆる会社の安全管理上の問題とも言える。

その意味では、「すべてが不正」という報道が先行しているが、「データを書き換えた問題」と「数値管理のあり方」は混同すべきではなく、別々の問題点として整理する必要がある。

責任追及や営利優先ではなく、「安全最優先」の職場風土をつくり出し、企業風土へと高めていくことが求められている。国交省では、輪軸組立作業の実態について検討の場がつけられるとの報道があるが、現場の実態や対策が反映されるものでなければならぬ。鉄軌道部会などを中心に鉄道各社の作業実態について共有し、数値管理や教育のあり方などについて、検証する場が必要ではないか。

答弁要旨

「交運労協として現場の声を伝える何らかの場の提供を考えていきたい」と答弁がありました。

JR総連は、鉄道の『安全』と『信頼』と取り戻すために、組織一丸となって実態を正しくつかみ、真の原因究明と再発防止に取り組んでいきます。

JR総連の訴えが世界の労働者の賛同を得る！

JR総連は、10月13日～19日にモロッコで開催された国際運輸労連（ITF）第46回世界大会に代表を派遣しました。

JR総連は大会方針に関して、列車の無人運転についての動議（方針の補強）を提出。大会期間中の16日に開催された鉄道部会総会で山口委員長が提案し、議論されました。山口委員長は「最後に安全を守るのは人間」「無人運転が安全に及ぼす危機感を社会的に訴えるべき」「組合組織の強化という目的を明確にして、安全という課題を対置し、組合員の問題意識を高め、反撃のための組織化をしていくことが必要」と発言しました。この提案に関してオーストラリア鉄道・トラム・バス労組（RTBU）が「JR U7（美世志会）」の反弾圧のたたかいかいにも触れながら動議の趣旨に賛同する発言をし、動議は満場一致で採択されました。世界大会にはRTBUをはじめとして、国際労働者交流センター（ICLS）加盟組合からも多くのリーダーたちが参加し、連帯を深めることができました。

翌17日に開催された都市交通委員会では、ITF執行委員を長年務めた住野交運労協前議長に功績を讃える記念品が授与されました。

会期中に多くの時間が費やされた全体会議では、様々な課題について議論される中、パレスチナとイスラエルの状況についても動議が提出され、議論が行われました。議論ではパレスチナとイスラエルの旗が振られ、イスラエルの労組代表が発言する際には、一部の参加者が退場するなど騒然となり、労働組合として戦争のない平和な社会を追求する上での課題が突き付けられる形となりました。

JR総連は、国際連帯をさらに強化しながら労働者が直面する課題について積極的に問題提起するとともに、世界で起こされているテロにも戦争にも反対し、誰もが安全に安心して暮らせる社会の実現に向けて、国内外で労働者の連帯を強化していきます。

